

インフルエンザウイルス感染症

◎インフルエンザウイルスの特徴

病原体	インフルエンザウイルス
感染経路	飛沫感染、接触感染
流行期	通常12月～3月下旬
潜伏期間	約1～3日
感染期間	発病後3日程度までが最も感染力が強いとされる (1病日～2病日でウイルス量がピーク)
症状	突然の発熱(38℃以上) 頭痛、関節痛、筋肉痛、全身けん怠感などの全身症状、 咽頭痛、咳、鼻水などの呼吸器症状 気管支炎・肺炎など合併し、重症化する場合がある (高齢者、慢性呼吸器疾患患者は要注意)



◎インフルエンザの感染経路

インフルエンザの感染経路には2つあり、主な感染経路は飛沫感染とする考え方が主流。

・飛沫感染

くしゃみや咳で出るしぶきを吸い込むことによる感染。くしゃみや咳を浴びる距離(2メートル程度)にいる人は感染の危険性が高い。

・接触感染

唾液や鼻水が手から手へ、あるいはドアノブやつり革などを介して手に付着することなどによる感染。

◎インフルエンザウイルスの人への感染力時間はどのくらいありますか？

研究結果では、インフルエンザウイルスが物品の表面に付着してから、最大2～8時間は人への感染力があるとされています。

◎インフルエンザワクチン3価→4価ワクチンの理由

従来、季節性インフルエンザワクチンには、A/H1N1pdm09、A/H3N2ならびにB型の3種類(3価)が含まれており、B型株については山形系統あるいはビクトリア系統のどちらか一方のワクチン株を選定していました。

しかし近年、B型インフルエンザは、2系統(山形系統とビクトリア系統)の混合流行が続いていることから、WHOは2013年シーズン【南半球向け】からB型2系統株を推奨しました。米国では2013/14シーズンから4価ワクチンが製造承認され、世界の動向は4価ワクチンへと移行しています。そこでわが国でも、2015/16シーズンよりA/H1N1pdm09、A/H3N2、B/山形系統ならびにB/ビクトリア系統の4価ワクチンとなりました。

◎インフルエンザワクチン接種

インフルエンザの流行や健康被害を抑える第一の方策は、インフルエンザワクチンの接種による予防です。予防接種を受けておくことで、発病や入院、死亡のリスクを下げることが期待できます。

当病院でも10月中旬より接種の受付を開始しますので、是非予約の方を宜しくお願いします。

※一般料金3,500円

※呉市在住で65歳以上の方は助成対象になっており、1,000円で接種できます。